

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基本的な語や文法事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して習得させる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチなどで表現する力を養う。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、単語や熟語を知っていても、それらがスペルと結び付かないという課題が見られる。ア 授業中の取組の様子や定期考査の結果から、まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、その概要や要点をつかむことに課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 単語練習プリントを週末課題として課すとともに、定期的にスプリングコンテストを実施する。また、毎回の定期考査後に考査復習テストを実施する。ア 教科書やワークブックの長文を読む際に、その内容を要約して書く練習やペアやグループで概要を伝え合う活動(ストーリーテリング)を積極的に取り入れる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 通年 	<ul style="list-style-type: none"> スプリングコンテストでは学年平均正答率が71%であり、全体の単語練習に対する意欲の高まりが感じられた。考査復習テストの実施は、連語・文法的要素についての定着・確認に有効であった。 ストーリーテリングを行う中で、文法的な誤りを気にせずに話そうとする姿勢を身に付けられた。今後は、文法の正確さを追及していく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、「文法問題」の正答率がやや低く、語彙や文法などの基礎的な学力が知識として身に付いていない様子が見られる。ア 定期考査の結果から、「英作文」の正答率が低く、解答用紙に未記入も見られ、目的・場面・状況に合わせた適切な英文で表現することに課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項について、基本となる英文を暗唱させる活動(語順を並べ替えて英文をつくる)を授業内に取り入れていく。くり返し暗唱することで、自然な形で文法事項を身に付けられるようにする。ア 日常的な話題について場面や状況を設定し、目的に応じた適切な表現を用いてスピーチさせる機会を設ける。音読練習を増やし、基礎学力をつける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 単元末 	<ul style="list-style-type: none"> 1月実施の「冬休み明け語順並べ替え」テストでは、81%の生徒が半分以上の点をとり、文法のしくみを理解するという基礎的な力を付けることができた。 第4回定期考査の「多摩市の紹介3文英作文」では、スピーチに取り組んだこともあり、96%の生徒が英作文を記入することができた。今後は正答率を上昇させていく。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 7月実施のGTECの結果では、「聞くこと」の正答率が低く、内容を聞いて解答することに課題が見られる。ア 7月実施のGTECの結果では、「書くこと」の項目で正答率が高かった。自分の考えを英語で表現する力が付いてきている。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 放送の内容を把握する際、必要な情報を問題から読み取り、適切に答える技能を身に付けさせる。リスニング問題を繰り返し行うことで、「聞くこと」への抵抗感を軽減する。ア 帯活動で実施している「自分の意見を1分話した後、2分でその内容を英語で書く」という活動を継続して行い更に力を伸ばせるようにする。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 通年 	<ul style="list-style-type: none"> 入試対策で行ったリスニングの過去問題では正答率が上昇し、「聞くこと」への抵抗感は減少している。 英作文問題の解答から見ても、これまでに培ってきた力で作文表現には自信をもって取り組んでいた。また、定期考査では約9割の生徒が中学校生活の思い出を40字程度の英文にまとめ書き上げることができた。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年: 生徒自身が授業を復習する際にデジタル教科書、自己表現活動の補助教材・共有ツールとしてロイロノートを有効活用する。【重点: 個別・協働】</p> <p>2年: 英語でのプレゼンテーションや表現活動をALTの時間を中心に設定する。その際にタブレット端末を使用し、原稿をロイロノートで提出させたり、発表時に大型提示装置で投影したりすることで、より伝わりやすい発表を目指す。【重点: 個別・協働】</p> <p>3年: デジタル教科書、ロイロノートを活用し、個別の音読チェック、Writing 課題の添削を行う。単元末に英語による意見交換を行う。【重点: 個別・協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年: 教科書本文プリントに UNIT ごとの要点整理と達成状況の確認を記載させ、以後の学習課題を明確にする。</p> <p>2年: 定期考査後に、学習内容や学習方法について観点別に自己分析を記入させ、次回までの学習調整のための振り返りを書かせる。</p> <p>3年: 生徒自身による要点整理と達成状況の確認、次回までの学習調整のための振り返りを書かせる。</p>
--	---